第 30 回安房地域母親大会
開会趣旨

日本母親大会は、ビキニ環礁の水爆実験を機に始まった原水爆禁止の訴えを原点として、「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」というスローガンを掲げ、1955 年に取り組みが始まりました。

その後、全国に広がり、**安房地域母親大会**は 1996 年から、老若男女を問わず誰でも参加できる学びや「話し合いの広場」を開催し、30 年目を迎えます。

昨今では子どもの不登校や自殺・事件も増え、少子化に伴う学校の統廃合など、子どもを取り巻く環境は大きな変化を迎えています。そうしたなか、2023 年に「こども基本法」が制定され、「こども家庭庁」が発足しました。子どもの意見や考えをもっと政治に生かしていこうと、省庁横断の「こどもまんなか実行計画 2024」も作られました。

安房地域でも、子どもたちが笑顔で幸せに生きていかれるような未来に向け、明るい希望につながる話し合いの場を重ねていきたいと願っています。そこで「100 年後の子どもたちに希望を手わたそう！」というテーマで、2 名の講師をお招きし、講演と「話し合いの広場（哲学対話）」を企画しました。また、これまでのあゆみを振り返り、様々な市民活動を紹介するとともに、第 30 回大会の記念誌を編集発行いたしました。永久保存版として、折にふれ、手に取ってお目通しいただければ幸いです。

＜目 次＞

開会趣旨		1
安房大神宮の森コモンプロジェクト／哲学対話		2
開会あいさつ	第 30 回安房地域母親大会 実行委員長　池田 恵美子	3
祝辞	千葉県母親連絡会 会長　渡辺 京子	4
	歴代実行委員長　天羽 道子 ／ 齊藤 陽子	5
	田中 房江 ／ 関 恵美子	6
講演：高田 宏臣	「安房大神宮の森コモンプロジェクトへの想い」	7
講演：永井 玲衣	「哲学対話 ～ 暴力に抗して」	12
構成団体紹介		17
安房地域母親大会 30 年のあゆみ		18
房州弁で憲法を ～日本国憲法第 14 条～		背表紙

第 30 回 安房地域母親大会

100 年後の子どもたちに希望を手わたそう！
～「安房大神宮の森」からみんなで話そう、安房の未来 ～

【安房大神宮の森コモンプロジェクト】

房総半島最南端の自然豊かで歴史文化的にも大切な大神宮の森を、現代の開発から守るために、「館山市森づくり大使」の高田宏臣さんは、仲間たちと融資を受けて 55 ヘクタールの土地を購入しました。所有を目的とするのではなく、古道や水源・集落跡や棚田などを再生する山林整備活動を進めています。

この森を共有財産（コモン）として、環境を改善しながら、健康な森を守り、地域に根ざした風土を育み、未来につなぐことを目的とした壮大なプロジェクトです。

高田さんが提唱する「有機土木」は、自然にある石や木の根の活かし、ワラや落ち葉などの有機物を使って施工して、土中の水脈を守り、すべての生命にやさしい工法といえます。

また、能登半島地震で崩壊しなかった「縄文小屋」と同型 1 棟をモデル的に建てており、活動拠点として増やしていく予定だといいます。

先人の知恵に学びながら、環境危機や異常気象、戦争などを乗り越え、「安房大神宮の森」そして安房地域が、どのような形で 100 年後に手渡されることが望ましいのか、皆さんとともに考え、未来を創造したいと思います。

【哲学対話ってなに？】

日常の小さな問いについて、子どもも大人もみんなで一緒に考える場を「哲学対話」と呼び、永井玲衣さんは各地でひらいています。家庭や社会のコミュニケーションにおいて、対立する考えで衝突するのではなく、上手な対話を通じてより良好な関係をつくり、問題解決や気づき、平和を生み出す手法です。

対話は、「話し合い」というよりは「聴き合う」場です。考えをぶつけ合ったり、急いで答えを出そうとするのではなく、互いの声に耳を傾けることを大切にします。発言しなければならないことはなく、聴くだけでも大丈夫です。